

### 金澤古蹟志卷七

#### 城外大手邊

#### ○不開門

此の門は、舊藩中御門前町より甚右衛門坂口へ往來する内惣樞堀の橋爪にありて、城外の惣門なりしかど、廢藩の際取除かれたり。加府故跡實錄に、不開門フカズカドの門前は、いにしへ城中本丸に本源寺ありし頃は、松原にて町端なりしゆゑに松原町と呼べり。依つて此の門の本名をば松原口門といへりと。昌披問答にも、不開門は松原口門と云ふ。今神護寺の隣屋敷は其のさき竹田市三郎の屋敷也。微妙公の御娘春姫をば竹田市三郎に被爲預置に付き、晝夜門戸を塞ぎ、往來を止めらる。依つてあかすの門と呼べり。正保三年春姫金澤より小松へ移り給ひ、同年本多安房守政長へ嫁し給ふにより、是より後は此の門塞は開き、夜中は塞ぎて、往來を禁ずといへり。三壺記に云ふ。黃門利常卿御妾の方に

出生し給へる姫君をば、竹田市三郎へ預けられて養育し奉る。市三郎が屋敷近の門なりしゆゑに、晝夜門戸を閉ちて往來を禁ぜらる。故に世俗此の門をば不開門と稱す。後姫君小松の御城へ移らせられ、往來元の如くなりたれども、猶不開門と呼べりとあり。三州志來因概覽附錄に載せたる趣も同じ傳説なれど、頭註に、一説に云ふ。今の丹後屋敷に竹田市三郎居住する處、市三郎小松へ引越しける後、居屋敷を差上げ、揚屋敷へ春姫移らせられたり。依つて此の門女房の往來あるゆゑに、常に往來を禁じて門戸を開かず。依つて不開門と呼べり。然るに正保三年十一月春姫本多長松へ下嫁するにより、此の門を開くといへり。今按ずるに、前田家略譜に、春姫寛永九年生。生母於古和方。鈴木權佐女也。後下嫁于本保加右衛門。春姫於竹田市三郎忠種之宅成長。正保三年十一月二日被嫁于本多安房守政長。慶安三年六月四日卒。享年十九。法號自清院齋室賢涼大姉。葬于大乘寺。とあり。竹田の舊邸を丹後屋敷といへる一説は過聞なるべし。

#### ○篠原織部舊邸